

診療科別プログラム（放射線治療科）

1 概要

診療科(基本領域)	放射線治療科
キャリア形成支援機関	産業医科大学病院
診療科別コース管理者 所属職氏名	准教授・診療科長 大栗 隆行
問合せ先	093-603-1611 内線 8524 (放射線治療科 医局) j-houchi@mbox.clnc.uoeh-u.ac.jp
コースの特長	
臨床分野	<p>強度変調放射線治療や定位放射線治療といった高精度放射線治療のレベルが高く、最新の放射線治療技術の臨床応用を行っている。治療期間中に起こる腫瘍や正常臓器の形態変化を即時に捉え、随時治療プランを最適化していく適応放射線治療（adaptive radiotherapy）を臨床導入している。最先端の治療手法であり、全国的にも実施施設は少なく国内をリードしている。</p> <p>放射線治療後の長期の外来診察を重視しており、詳細な治療評価や、副作用への十分な対応を行っている。さらに再発・転移を生じた際に、最適な放射線治療を即時に実施できる体制を整えている。また、放射線治療科の病棟を有し、化学療法の実施、緩和ケア、疼痛・栄養管理や、副作用への対応など、がん診療全般を学ぶことが可能である。</p> <p>放射線治療効果を高める温熱療法は、全国トップレベルの症例数である。膵臓がんや再発がん等の難治性癌への治療実績が高く、多くの紹介受診がある。また、国内外の医師や技師が研修に訪れている。日本膵臓学会の膵癌診療ガイドラインや日本ハイパーサーミア学会のガイドライン作成にも参画している。</p> <p>治療適応が乏しくなったがん患者に対して、救済的・緩和的な放射線治療や温熱治療の実施に関して紹介受診やセカンドオピニオンを広く受け入れている。いわゆる“がん難民”の受け皿となりうる診療を展開している。</p>
研究分野	<p>高精度放射線治療の治療計画に関して指導的立場にあり、治療機器メーカーと共同し、全国規模の治療計画を競うコンペティションの開催を行っている。</p> <p>温熱療法の臨床研究はトップレベルであり、英文論文作成(25編以上)や学位取得、ガイドライン作成でも中心的役割を果たしている。2022年には日本ハイパーサーミア学会の全国大会を当科が担当する。高精度放射線治療や温熱療法に関する多くの臨床試験への参加および立案を行い、新たなエビデンスの創出を目指している。</p>

2 取得可能な資格、知識、経験等

取得可能な資格、知識、経験等	備考(標準的な取得時期等)
放射線科専門医	医師免許取得後6年目
放射線治療専門医	医師免許取得後8年目
希望により、日本がん治療認定医	医師免許取得後6～9年目
希望により、日本ハイパーサーミア学会 指導医	医師免許取得後6～9年目
博士(医学・産業衛生学)	医師免許取得後6～9年目

3 専門産業医コースⅡのキャリア形成のイメージ

(想定就業例であり将来的な配置を約束するものではありません)

(その1)

卒後	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年
キャリア	前期課程 (初期臨床研修)		後期課程(専門産業医コースⅡ) 産業医科大学病院または関連病院 (社会人大学院)				産業医等 (本学病院、労災病院、大学院、企業等)				
			専門研修(放射線治療科)								
就業先	臨床研修病院		本学	本学	本学	本学	本学	本学	本学	産業医	産業医

(その2)

卒後	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年
キャリア	前期課程 (初期臨床研修)		後期課程(専門産業医コースⅡ) 産業医科大学病院または関連病院 (社会人大学院)				産業医等 (本学病院、労災病院、大学院、企業等)				
			専門研修(放射線治療科)								
就業先	臨床研修病院		本学	関連	本学	本学	本学	本学	本学	産業医 (労衛機関)	産業医 (労衛機関)

※専門プログラム上 連携：連携施設

※本学：産業医科大学あるいは産業医科大学病院、関連：関連病院、産業医：産業医2年義務（返還免除対象職務の期間中に2年以上企業等に勤務）、

大学院（当科は病院診療科のため医学部講座に依頼）：3～4年間、大学院にて博士号取得、労災：労災病院

4-1 専門医プログラムで勤務が想定される医療機関(将来的な配置を約束するものではありません)

本学（基幹）の連携施設		本学が連携施設となるプログラムを持つ病院 ※本学(基幹)の定員を超える場合や委員会にて特段の理由を認めた場合に適用する	
シーリング対象	シーリング対象外	シーリング対象	シーリング対象外
共愛会戸畑共立病院			

4-2 産業医2年義務、免除対象職務、猶予等

産業医2年義務	免除対象職務	猶予申請し、赴任する医療機関等
産業医（企業） 労働衛生機関医（1/2以上） 勤労者医療総合センター医（1/2以上） 過労死等調査研究センター 厚生労働行政機関の職員（労働局安全衛生部の医系技官）	修練医 本学大学院生 産業医科大学教育職員 労災病院医師 厚生労働行政機関の職員（医系技官） 労働衛生機関医（1/2未満） 検疫所 地方厚生（支）指導医療官	一般研究生 産業医学履修のための留学

5 診療科別コース管理者からのメッセージ

がん患者に寄り添い、体に優しい治療を全身の様々な臓器を対象に行っていく診療科です。

最新技術を用いて完治を目指す根治治療から QOL 改善を目指す緩和治療まで、放射線治療の重要性は年々高まっています。当科では放射線腫瘍医として修得しておくべき放射線治療全般の臨床修練を行っています。日本専門医機構の放射線科領域専門研修プログラムに準拠し、放射線治療専門医に合格するレベルを目標としています。

(注意事項)

- ・実際の勤務先等はその時点での診療科の事情や修学資金猶予期間（妊娠・出産・育児・学位取得や留学等）等の影響を受けるため、上記の内容と異なる場合があります。
- ・キャリアプラン兼報告書における就職先が修学資金返還免除対象職務であることを十分確認してください。
- ・年1回以上、面談を行う等、次年度以降のキャリアプラン兼報告書を作成し、大学に毎年1月末までに提出してください。
- ・キャリア形成プログラムに関する相談窓口をキャリア支援課（進路支援プラザ内）に設置しています。